

# 狛江市 人口ビジョン

(平成 27～72 年)

&

# 総合戦略

(平成 27～31 年度)

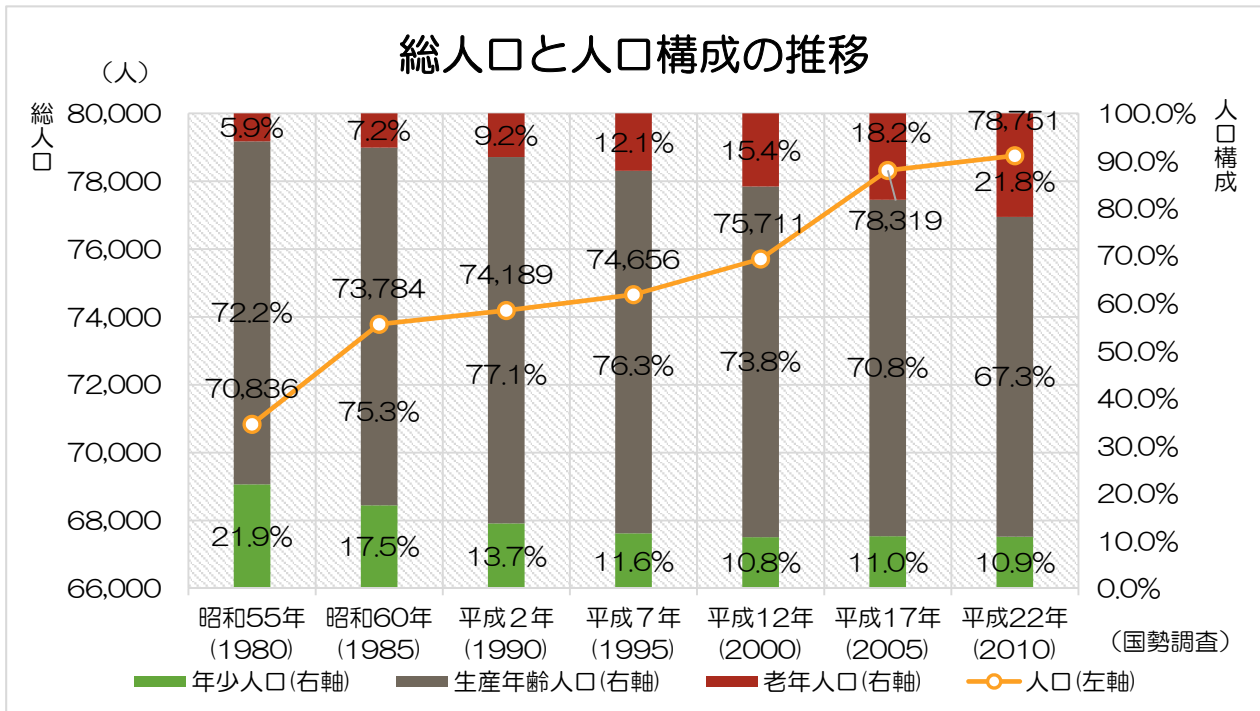
— 元祖コンパクトシティ狛江の地域戦略 —

概要版

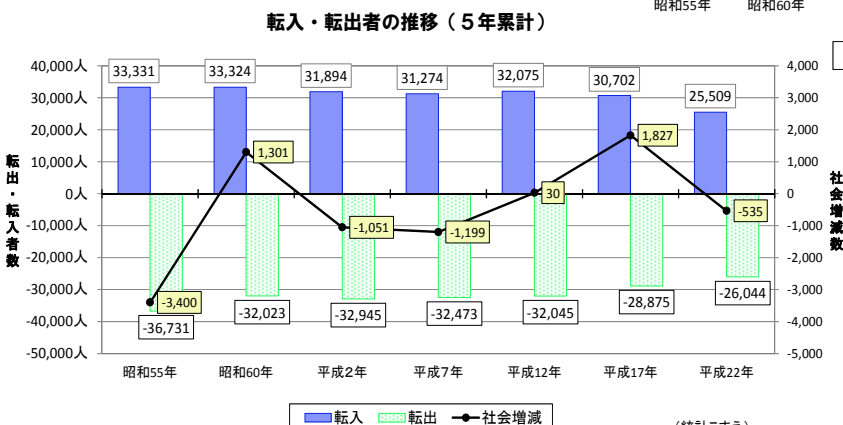
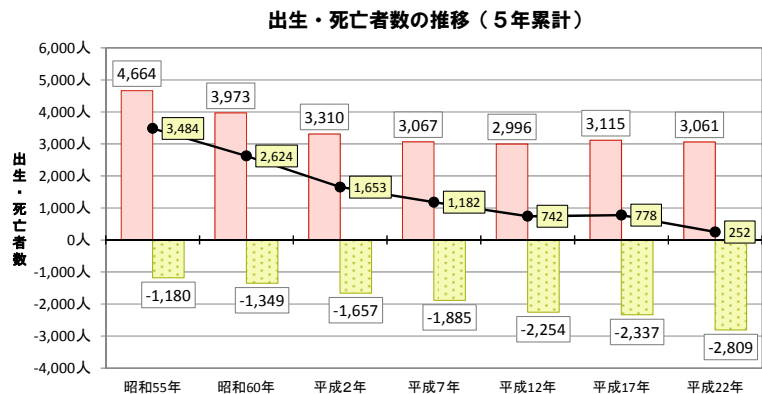
# 狛江市人口ビジョン

## 人口動向の特性

- 狛江市は昭和55年以降、なおゆるやかに増加を続けており、平成22年には78,751人となっています。
- 30年間で老年人口は15.9ポイント増加し、年少人口は11.0ポイント減少しており、少子高齢化が進行しています。



○出生・死亡者数の推移をみると、出生数は平成2年以降は横ばいで推移しています。一方、死亡者数は年々増加傾向となっており、その結果、自然増減は昭和55年の3,484人増から平成22年には252人増へと増加幅が縮小しています。

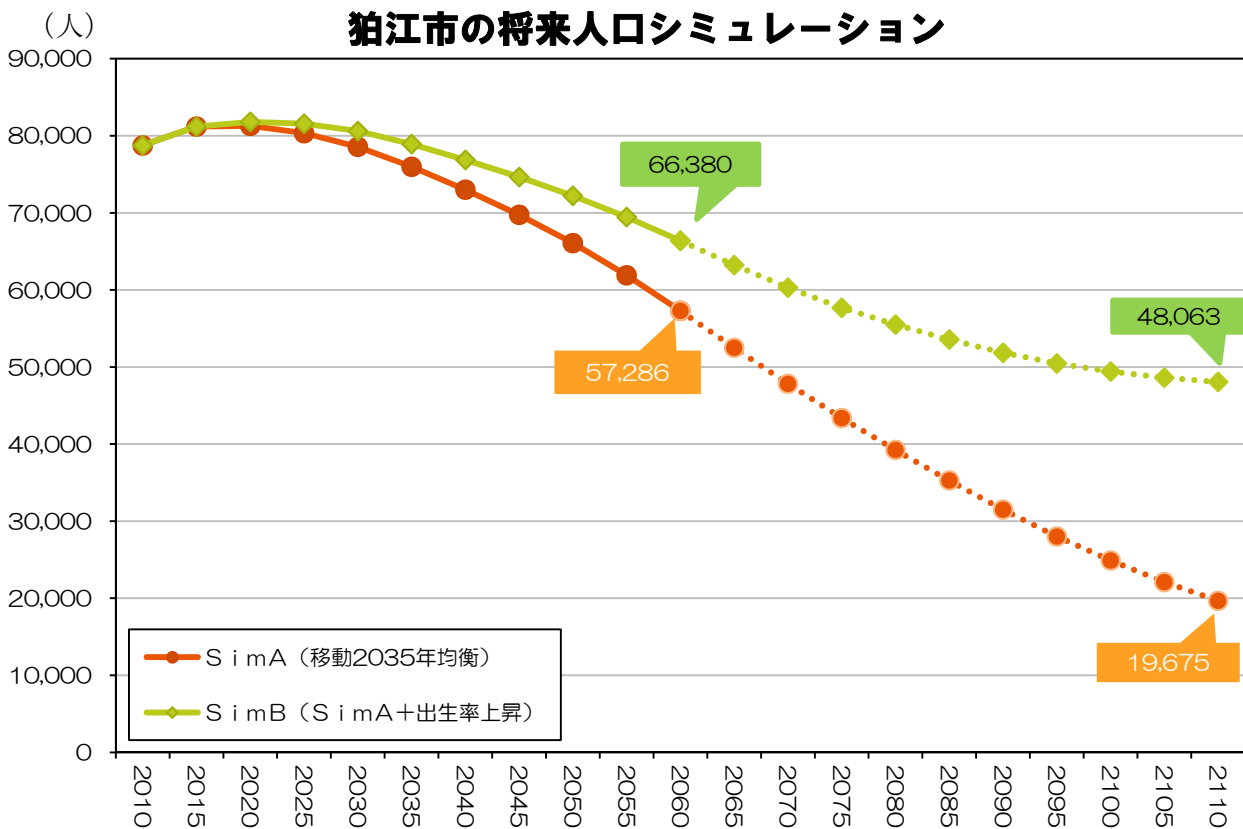


○転入・転出者については、大型マンションの建設による影響といった特殊要因を除けば、社会増減としては転出超過の傾向となっています。

## 将来展望 ～将来人口シミュレーションと目標人口～

- 既に国の人口は減少し、東京都の人口も 2020 年をピークに減少に転じることが想定されていることから、狛江市は社会増による人口増を見込むことは難しいと考えています。
- 現状の低い出生率で推移した場合、自然増減もマイナスとなります。
- 出生率が上昇しない場合の人口シミュレーション (SimA) では、狛江市の人口は 2060 年に 57,286 人ですが、人口は減り続けるため 2110 年には 2 万人を割ってしまいます。
- 出生率を上昇させた場合の人口シミュレーション (SimB) では、2060 年に 66,380 人であり、その後も減少しますがやがて横ばいで推移するようになります。
- 人口構造としても、少子化対策の推進により、一定程度の健全化を図ることができます。
- 市民の暮らしを守るために自治体として今後も存続するためには、出生率の上昇が不可欠です。

少子高齢化といった本市の人口問題に対して、長期的視点から取り組むことにより、  
2060 年において 66,000 人程度の人口規模を目指します。



### 【シミュレーションA (SimA)】

出生：2015 年の合計特殊出生率について、2015 年 8 月 1 日現在の実態人口を踏まえて調整。2020 年以降は 1.01 程度で推移することを仮定。

移動：2020～2035 年は、国立社会保障・人口問題研究所の仮定値をベースに大型マンション建設による一時的増加分を排除して移動率を設定。2035 年以降、移動がゼロ (均衡) となることを仮定。

### 【シミュレーションB (SimB)】

出生：合計特殊出生率が 2060 年に 1.80 まで上昇するものと仮定。

移動：シミュレーションAと同様。

# 狛江市総合戦略

## － 元祖コンパクトシティ狛江の地域戦略 －

狛江市は、市域面積が全国の市の中で2番目に小さく、中心から半径2 kmに収まり、道も平坦であり基本的にはすべて徒歩圏内であり、元々コンパクトシティが形成されている市です。このコンパクトさをいかし、戦略的に市民が「いつまでも住み続けるためのまちづくり」を推進します。

基本理念

## いつまでも住み続けるためのまちづくり

目標人口として2060年において66,000人程度の人口規模を目指し、いつまでも住み続けるためのまちづくりを推進し、基本目標や重要業績評価指標（KPI）による評価・検証を行うPDCAサイクルを確立します。

狛江市の特徴として25歳から39歳までの年代の転出が大きいことから、この世代に定住してもらえるよう、自然や文化、安心・安全なまちという狛江の魅力をいかした事業を展開します。

少子化に対応するためには、出生率の向上が不可欠であり、安心して子育てできる環境を整備し、子育て世帯を応援します。

また、さらなる高齢化の進展も想定されており、誰もがいきいきと暮らせるまちづくりを推進し、市民が活躍する環境を整備することで引き続き活気あるまちづくりを推進します。

### いつまでも住み続けるためのまちづくり



## 基本方針

### 1

# 魅力あるまちづくり

### ～ 狛江に愛着が生まれ、地域の活性化につながる取組みの推進 ～

「狛江市市民意識調査」（平成 24 年）では、暮らしの場所としてまちを選ぶときに重視する点として“交通の便利さ”“買い物の便利さ”といった生活の利便性に次いで、“災害、犯罪などからの安全さ”“自然の豊かさ”が上位に挙げられています。

東京都市圏のベッドタウンとしての本市の姿を展望するとき、将来にわたる魅力の基本的要素として、“災害、犯罪などからの安全さ”“自然の豊かさ”といった観点が極めて重要になってくるものと考えます。

こうした観点到立ちながら、これからも安心して暮らすことができ、ひとりでも多くの方に狛江市への愛着が生まれるように、魅力あるまちづくりを進めます。

基本目標指標	現 状	目 標 (平成 31 年度末)
狛江市に“ずっと住みたい”人の割合	42.2%	51.0%

※現状値：第9回狛江市市民意識調査（平成 24 年）

## 安心・安全なまちの推進

災害時応援・協力協定締結の推進や警察署等と連携した特殊詐欺防止対策に取り組むなど、安心・安全なまちづくりは狛江市の特性です。市民の生活を守るとともに、狛江の魅力の向上につながるよう安心・安全なまちづくりを推進します。

### 防災機能の強化

○他自治体等との連携強化

○情報伝達体制の整備

### 防犯機能の強化

○地域の見守り機能の強化

○犯罪や事故を未然に防ぐ環境の整備

## 狛江の自然や文化をいかした活性化

狛江市に長く住むためには、狛江にある資源をいかしたまちづくりが求められており、狛江の自然や文化をいかしたイベントの開催は、まちを活性化させるとともに、市内外に魅力を発信することにつながります。また、これまで取り組んできた広域連携を一層推進することにより、まちの魅力の向上を図ります。

### 狛江らしいイベントによる活性化

○音楽による地域の活性化

○多摩川をいかした魅力あるイベント等の開催

○狛江駅前三角地及び狛江弁財天池特別緑地保全地区の活用

### 魅力の発信

○シティセールスの推進

○独自性のある商品のブランド化

○オリンピック・パラリンピックをいかした狛江市のPR事業

○広域連携の推進

○民間活力による活性化



～ 少子化に対応するため、子育てを応援 ～

全国的な少子化が深刻化する中、狛江市における合計特殊出生率は、ほぼ一貫して全国水準、都水準を下回って推移しており、こうした傾向が続くと人口構造の高齢化に拍車がかかるとともに、将来的には人口減少に転じることが想定されます。

また、ベッドタウンとしての一面をもつ狛江市にとって、安心して出産や子育てができる環境を備えることは、魅力ある都市であり続けるために欠くことのできない条件であるとの認識に立ち、切れ目のない子育て支援体制の構築・充実に向けた取組みを進めます。

基本目標指標	現 状	目 標 (平成 31 年度末)
合計特殊出生率	1.02	1.23

※現状値：平成 18 年～22 年までの5年間の平均値

## 子どもが健やかに育つ家庭への支援

少子化に対応するため、安心して子育てできる環境の整備が求められています。核家族化等により、子育て家庭が孤立しないように情報の発信や相談機能を充実させ、子どもが健やかに育つ家庭への支援を行います。さらに、テレワークなど子育てをしながらも女性にとって魅力的な在宅就業の支援にも努めます。

### 地域での子育て支援体制の充実

- 子育て家庭の孤立化を防止

## 子育て環境の充実

共働き家庭の増加や就労形態の多様化などにより、保育を必要とする子どもが増加するとともに、保護者の求める保育サービスも多様化しています。待機児の解消とサービスの充実を図っていきます。

### 保育ニーズに即応したサービスの充実

- 待機児童の解消
- 病児・病後児保育の充実

### 子どもと親子の居場所づくり

- 学童保育所・小学生クラブ等の充実
- 子どもの遊び場の確保
- 子育て世代の活動場所づくり



《野川たんぽぽひろば》

～ 超高齢化や多様な市民ニーズへ対応するため、市民が活躍できる環境を整備 ～

高齢者人口は平成 62 (2050) 年まで一貫して増加するとともに、高齢化率については 38% 程度にまで増加することが想定されます。こうした超高齢化社会を見据えるとき、高齢者を含め、市民一人ひとりのまちづくりへの参加と参画を前提とした協働のまちづくりがこれまで以上に重要になってくるものと考えられます。

市民一人ひとりがそれぞれの関心と興味に応じた分野等において、地域の中で活躍できるよう、機会づくり・しくみづくりに取り組みます。

基本目標指標	現 状	目 標 (平成 31 年度末)
市民公益活動に取り組む市民の割合	—	30.0%

## 地域に貢献できる人材の育成

生産年齢人口の減少に伴う税収の減少や市民ニーズの多様化などに対応するためには、地域で活躍する人材の育成は、今後も必須になると考えています。地域活動の基礎となる町会・自治会の活性化や元気な高齢者を地域の発展に結び付けていくような取組みを推進します。

公民館等の市民になじみのある施設を、世代を超えたつながりを生む交流の拠点として活用していくとともに、新たに設置される市民活動支援センターとも連携し、地域の人材の発掘、育成に向けた取組みを進めます。

### 高齢者が活躍するまち

- 高齢者が活躍する場となる組織の活性化
- 高齢者が活躍するしくみづくり

### 市民活動の活性化

- 地域活動の支援
- 市民活動支援センターの設置
- 市民活動の活性化を担う人材の育成



《会食会》



《地区対抗 45 人リレー》

重要業績評価指標（KPI）一覧	現状	目標 (平成31年度末)
-----------------	----	-----------------

**基本方針1 魅力あるまちづくり**

**安心・安全なまちの推進**

**(1) 防災機能の強化**

昨年1年間に防災に関する催しに参加したことがある市民の割合	20.3%	⇒	30.0%
自然災害に対して何らかの備えをしている市民の割合	63.2%	⇒	70.0%
耐震性能が確保された住宅に住んでいる市民の割合	62.6%	⇒	70.0%

**(2) 防犯機能の強化**

市内刑法犯認知件数のうち、窃盗犯・粗暴犯・その他の合計件数	591件	⇒	550件
-------------------------------	------	---	------

**粕江の自然や文化をいかした活性化**

**(1) 粕江らしいイベントによる活性化**

イベント等に3回以上参加したことがある市民の割合	—	⇒	30.0%
--------------------------	---	---	-------

**(2) 魅力の発信**

粕江市の認知度	444位	⇒	350位
---------	------	---	------

**基本方針2 子育てしやすいまちづくり**

**子どもが健やかに育つ家庭への支援**

**(1) 地域での子育て支援体制の充実**

子育てひろば年間利用者数	27,750人	⇒	35,000人
--------------	---------	---	---------

**子育て環境の充実**

**(1) 保育ニーズに即応したサービスの充実**

認可保育所受入定員数	1,168人	⇒	1,506人
ファミリー・サポート・センター事業会員数	1,295人	⇒	1,400人

**(2) 子どもと親子の居場所づくり**

放課後児童健全育成事業定員数	520人	⇒	780人
プレーパーク年間利用者数	—	⇒	10,000人

**基本方針3 市民が活躍するまちづくり**

**地域に貢献できる人材の育成**

**(1) 高齢者が活躍するまち**

日頃から地域の行事や活動に参加したり、他の人とふれあう機会がある高齢者の割合	50.0%	⇒	60.0%
要介護等認定者割合	21.7%	⇒	20.0%

**(2) 市民活動の活性化**

町会・自治会加入世帯数	18,370世帯	⇒	20,000世帯
市民活動支援センター年間利用者数	—	⇒	10,000人